

NEWS LETTER



京都教育大学
附属教育実践センター機構

Kyoto University of Education
Organization of Educational Research and Practice Centers

第3号 (2011. 8.8)

教育支援センター

Educational Support Center

<http://cert.kyokyo-u.ac.jp/>

学校訪問について

近年、特別活動のキャリア教育や総合的な学習の時間の中で「大学訪問」を取り入れる中学校が多くなっています。これまで教育支援センターでは、学生のボランティア活動の一環として、また「学校訪問」という名称でこれらの中学校を受け入れてきました。すでに平成23年度においても、5校の中学校を受け入れています。これまでの学校訪問の様子を紹介させていただきます。

大学を訪問する中学生は朝の9時30分頃に大学に到着し、その後すぐに、大学の概要について教育支援センター教員から話を聞く時間が設けられます。次に、中学生の質問に関して学生ボランティアが対応するという形式で、中学生と大学生との交流を図ります。その後、学生ボランティアの案内で40~50分程度、大学内を見て回り、最後に学生食堂で、昼食を済ませ、次の訪問先(他大学や公共機関等)に移動するというのが一般的な学校訪問のパターンです。



6月17日(金)には、京都市立大淀中学校が本大学を訪問されました。この時は約40名の中学生が訪れたため、こちらは学生ボランティア6名で対応させていただきました。毎回、中学生からは子どもらしい質問が飛び交うのですが、この日も次のような質問がなされました。

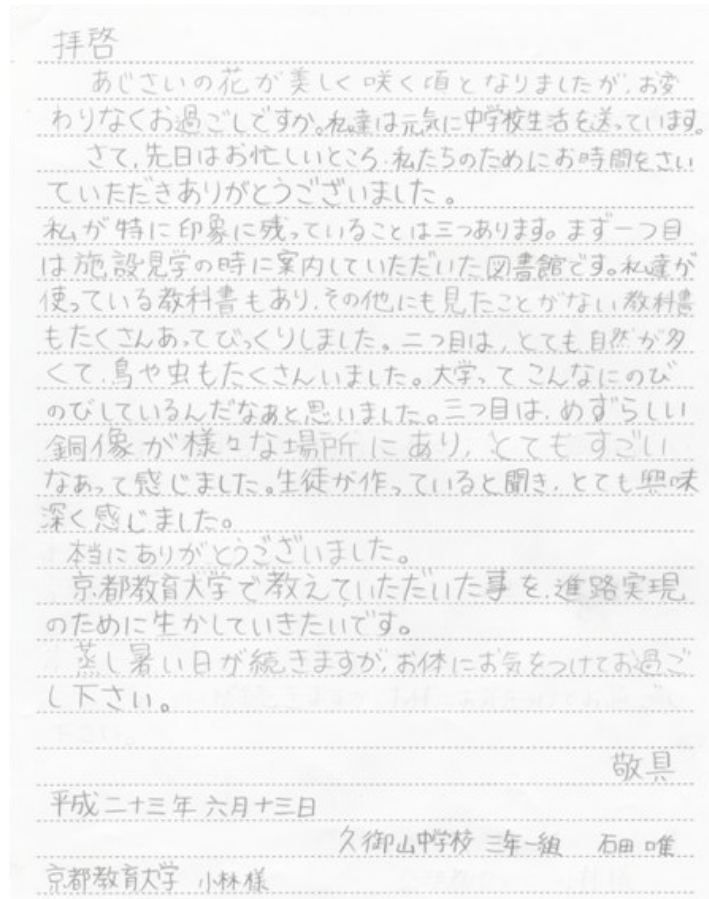
- ・大学ではどんなことを学習していますか？
- ・大学に入るにはどんな苦勞をしましたか？(6人中3名が浪人生ということもあって、学習をこつこつする必要があると回答。)
- ・大学には違う地域の人がたくさん集まっているようですが、違う地域の人とどのように仲良くするのですか？(京都教育大学という名称から、中学生にとっては、京都全域から学生が集まってきていると勘違いしているようで、都道府県を跨って学生が入学しているという認識がない子どもも多いようである。これにはこちらが驚かされました。)
- ・どんな先生になりたいですか？(「授業をおもしろくできる先生になりたい」と回答。)
- ・中学生時代は成績が良かったですか？等々 また、大学内の敷地散策では、中学生にとって敷地やグラウンドが大きいと感じるようで、大講義室の大きさにもインパクトを持つ子どもたちが多いようです。さらに、学食内では、毎回のようにメニューがすぐには決まらず、自分の椅子に座るまでに多くの時間を要してしまいがちになります。今回も食事をしながら「給食よりおいしい」とか、「こういうところに来たら大学に来たくなるなあ」等の嬉しい声が聞かれました。

他にも、京都市内の中学校ではリーダー講習会という名称で大学への学校訪問が行われています。これは各中学校の学級代表のようなリーダーが、例えば、「企画を作成するにはどのような方法で行うのが良いのか。」とか、「文化祭を成功させるためにリーダーとして具体的にどのような活動をすれば良いのか」といったことを本学に学びに来るのです。この場合は、朝から夕方までの活動となり、こちらの学生ボランティアと中学校側の教師や代表の子どもとの事前打ち合わせも数回行われます。オープンキャンパスの前日8月5日(金)は、京都市立陶化中学校が訪問しました。

(課題等)

- ・大学生の講義中に学校訪問があるので、学生の調整がつきにくい。これまでの学生ボランティアの善意あるいは個人的な知り合いを通じて集め対応しているのが、実情。
- ・学生ボランティアが少なくなっているのと、午前中の対応なので、ほとんど4回生しか対応できない。
- ・本プログラムは、大学の広報的側面を有しており、今後の継続的な実施のためにも、まったくのボランティアで良いかどうかの検討が必要。

(学校訪問を終えた中学生からのお礼の手紙)



学生ボランティアについて

学生ボランティア活動のすすめ

昨年度（平成20年度）は約240名のボランティア登録があり、のべ265の学校園、教育施設での活動が行われました。活動報告書には、「実習を行った附属校とは違う公立校の様子を知り、大変勉強になった」「子どもたちの様子を余裕を持って見られることで、4月からの教員生活への大きな自信につながりました」「授業を多く見せてもらい、勉強になりました」「先生方や子どもたちが温かく迎えてくれたので、毎回行くのが楽しみでした」などの感想が寄せられています。

時間的な制約もあり、大学が準備している4年間のカリキュラムの中で実地教育は、限定的です。学生ボランティア活動を活用することで、「体験と省察」の繰り返しの強化が図られるでしょう。

多くの学生の参加が望まれます。

ボランティア活動に関して、学生に周知していただきたいこと～手続きフローとともに～

1. 学生が公立学校等でボランティア活動をする場合、必ず、教育支援センター内の地域支援推進室で登録するようお願いいたします。正式に大学に登録しておくこと、例えば、教員採用試験の書類作成の際に、ボランティア活動の実施について大学側で承認することができ、就職にとって有利に働く場合があります。
2. 京都府内だけでなく、さまざまな地域での多様な学校ボランティア（時間的にも）を紹介することができますので、興味関心を持っている学生には、ぜひ、一度、地域支援推進室に来室するようお声かけください。

【教育支援センター内：学生ボランティア活動担当】

受付時間 月曜日・木曜日 10時～13時
金曜日 12時～16時

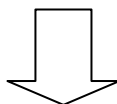
〈連絡先〉 Tel 075-644-8336 E-mail sien@kyokyo-u.ac.jp 河内（かわち）

公立学校等におけるスクールボランティア活動の手続き

(登録)

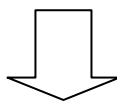
教育支援センター内の地域支援推進室
あるいは、教務課6番窓口。

資料の閲覧

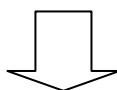


(学生が活動校を選択する)

教育支援センター内の地域支援推進室に報告。

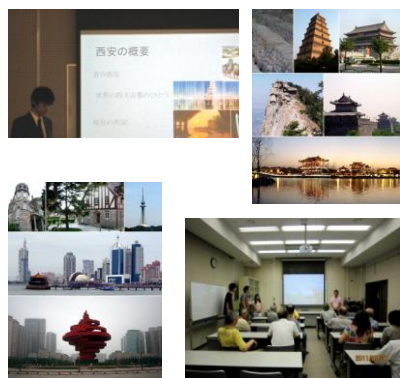


(公立学校で面談) → (活動校の正式決定)



(活動開始)

留学生と地域住民との交流プログラム



7月1日(金)には、中国における「西安のまちづくりについて」というテーマで、楊超さん(教育学部3回生)にお話をさせていただきました。長い歴史をもつ西安の特徴について、兵馬俑などを取り上げながら、わかりやすく説明していただきました。

7月27日(水)には、「青島ビールご存じですか」というテーマで、修寧さん(教育学部1回生)にお願いしました。ビール産地や軍港として有名な中国の青島地域の特徴について、色鮮やかな写真を用いて、丁寧に紹介していただきました。

次回は10月に予定しています。ポスター掲示や学内一括メールで案内します。

入退場は自由ですので、開催時に少しでも時間があれば、覗いてみて下さい。留学生を通して、その町の息づかいが聞こえてくる、そんなひとときをお過ごし頂けます。

留学生交流演習室のboard deco



教育支援センター1階にある留学生・地域交流演習室のホワイトボードに、本学幼児教育学科のみなさんが色画用紙で飾ってくれています。

夏らしい様子がよく表現されていて、部屋を明るくしてくれています。

教育支援センターにお越しの際には、ぜひご覧ください。



教育支援センター主催「教育について考える」シンポジウム/セミナー/ワークショップ等

教育実践総合センターの頃より行っている当事業を教育支援センターも継続して行っています。本年度採択された一覧です。既に終了した催しもありますが、まだまだ多く開催されますので、よろしくお願い致します。

	標 題	開催日 (終了含む)
1	「人権に基づく性教育」シリーズ	5/12, 6/14
2	これは使える！教材づくり	8/3
3	障害児の就労支援	未定
4	第3回美術科工芸特別セミナー 企業における産業・工芸デザインの歴史と現状	未定
5	シリーズ 国語科における法教育の実践	7/12, 21, 28, 29
6	伝えあい学び合う足場のある算数授業を求めて	11/4
7	古典を科学する	9/3
8	臨床こくご学の試み	7/19
9	国際教育セミナー タイの小学校・中学校における国際教育 ー日本の学校・大学との交流を通してー	10/2
10	高校の英語教育に生かす同時通訳訓練法、効果的な音読訓練法	未定
11	総合学習の現在とこれからー私たちが学んだこと、言いたいことー	7/26
12	響き合うコミュニケーションの力を育む ー園内の飼育動物とのコミュニケーションって?!ー	9/21
13	バイオマスエネルギーと環境教育 (1) ー木質ペレットの意義、有効性を考えるー	7/28
14	東日本大震災心理支援ワークショップ@京都 地域の復興に向けていま子どもたちのためにできること	12/17, 18

(受付順)

教育支援センタープロジェクトについて

教育実践総合センターの頃より行っている当事業を教育支援センターも継続して行っています。当センターは、大学と附属の教員が共同で行うプロジェクトを応援しています。参加してみたいプロジェクトがありましたら、プロジェクト代表者に連絡してみてください。

	プロジェクト名	代表者名
1	国語科における法教育の実践・研究開発	札埜和男 (附属高校)
2	ロボカップジュニア出場を目的としたロボットサークルの創設	小山雅人 (附属京都小中学校)
3	金融 (資金運用) 教育は (なぜ) 必要か	田岡文夫 (社会科学科)
4	大学と附属学校園におけるICT活用の実践研究	浅井和行 (大学院連合教職実践研究科)
5	平和・国際教育の実践に向けた附属学校と大学の連携 (1)	村上登司文 (教育学科)



教育支援センター スタッフ

センター長 (併)	水山 光春	075-644-8281	mizuyama@
教育実践連携部門	樋口とみ子	075-644-8337	tomiko@
実地教育部門	小林 稔	075-644-8229	mkoba98@
モラル・人権意識向上教育部門	関口 久志	075-644-8326	sekihisa@
特任教員 (京都市教育委員会)	桶谷 守	075-644-8214	oketani@
特任教員 (京都府教育委員会)	竹花 裕子	075-644-8216	yuko627@
事務補佐員 センター全般	杉本 恭子	075-644-8335	kyoko@
事務補佐員 地域支援推進室	河内真由美	075-644-8336	sien@
事務補佐員 留学生・地域交流演習室	(16時15分-17時15分) 鄭紫薇 (月・火・金) 李琳 (水・木)		

TEL 075-644-8335 FAX 075-644-8339 E-mail cert@kyokyo-u.ac.jp

